

大阪教育大学附属天王寺中学校評価資料
—生徒，保護者，教師を対象とする調査結果—

令和3年3月

(1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

【生徒・保護者用】

Q1	中学・高校の別
Q2	性別（生徒の性別）
Q3	学年
Q4	組
Q5	SSH 科目受講の有無（中学生は該当せず）
生徒：「学校のように、あなたの1学期から今までの学校生活を振り返ってどう思いますか」 保護者：「学校のようにお子さまの1学期から今までの学校生活をどう思われますか。」 1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少しそう思う、4そう思う	
Q6	この学校は、学校の考え方や目標をきちんと生徒に伝えている。
Q7	この学校の先生は、生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。
Q8	この学校の生徒は、お互いを認め尊重しあっている。
Q9	この学校では、先生と生徒がよく信頼しあっている。
Q10	この学校は、生徒が成長するのにふさわしい環境である。
Q11	この学校には、困ったことや悩みがあるとき相談できる相手がいる。
Q12	私は将来の目標を持ち、それに向けて努力している。
Q13	私は興味・関心を持って授業を受けている。
Q14	私は学習において、予習・復習や課題の提出などに、普段から努力している。
Q15	私はよく観察して調べたり、物事を考えたりという、探究の活動に積極的に取り組んでいる。
Q16	私は他の生徒と協力して活動している。
Q17	私は学校でまわりの人から理解されている。
Q18	私は学校で、まわりの人を大切にしている。
Q19	私は学校で、挨拶や礼儀に気を配って生活している。
Q20	私は学校の決まりごとをよく守っている。
Q21	私は学校でやりたいことができ、生活が充実している。
Q22	私は今、学校生活において心配や、悩んでいることは特にない。
Q23	私はこの学校のことを誇りに思っている。

【教師用】

Q1	中学・高校の別
Q2	性別
Q3	教職経験年数
	1 : 15 年未満, 2 : 15 年以上
Q4	生徒に将来の目標を持たせ、それに向けて努力させている。
Q5	探究的な活動を意識して、生徒に積極的に取り組ませている。
Q6	読解力や表現力の育成を意識して、生徒を指導している。
Q7	生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。
Q8	予習・復習や課題の提出など、普段から生徒に努力させている。
Q9	生徒のようすをよく把握しながら指導や相談への対応ができています。
Q10	他の生徒と協力して活動するよう指導している。
Q11	人権を尊重した仲間作りを意識して指導している。
Q12	時間を意識した生活をするよう指導している。
Q13	学校にふさわしい服装を意識した生活をするよう指導している。
Q14	教室などの整理整頓や美化を意識した生活をするよう指導している。
Q15	本校の教育目標を理解して教育活動を行っている。
Q16	附属天王寺の中学生・高校生の両方に教師として関わりたいと思っている。
Q17	自分の指導目標や考え方は生徒に理解されている。
Q18	保護者への対応は自信を持ってできている。
Q19	職場環境を良くするよう努めている。
Q20	熱意を持って日々の仕事に取り組んでいる。
Q21	日常的に周りの教員と、生徒のことについて話している。
Q22	日常的に周りの教員と、教科や教育のことについて話している。

生徒・保護者及び教員ともに質問項目に、R1より変更した項目がある。

生徒・保護者版は、新たに「Q11 この学校には困ったことや悩みがあるときに相談できる相手がいる」を加え、全体の項目数が1つ増えて23となっている。

教員版は、R1の項目「Q15 生徒が充実した生活を送れるように努力している」を削除し、新たに「Q21 日常的に周りの教員と、生徒のことについて話している。」「Q22 日常的に周りの教員と、生徒のことについて話している。」を加えた。教員が生徒の様子を把握し指導する際に、職員間でコミュニケーションをしているかに着目して問いをたてた。

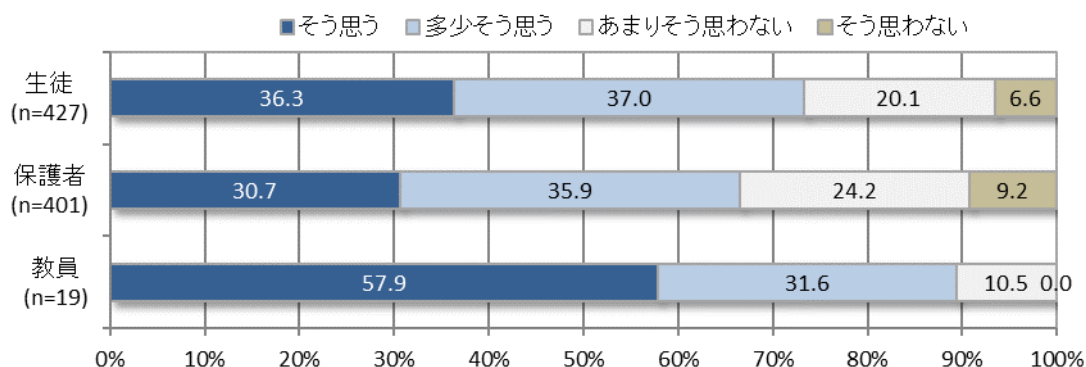
(2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。

属性	性別			学年				合計
	男性	女性	無記不明	1年	2年	3年	無記不明	
生徒 (n=427)	212 49.6	211 49.4	4 1.0	141 33	141 33	142 33.3	3 0.7	427 100.0
保護者 (n=401)	197 49.1	201 50.1	3 0.8	139 34.7	134 33.4	127 31.7	1 0.2	401 100.0
教員 (n=19)	13 68.4	6 31.6	0 0.0					19 100.0
全体 (n=847)	422 49.8	418 49.4	7 0.8	280 33.8	275 33.2	269 32.5	4 0.5	847 100

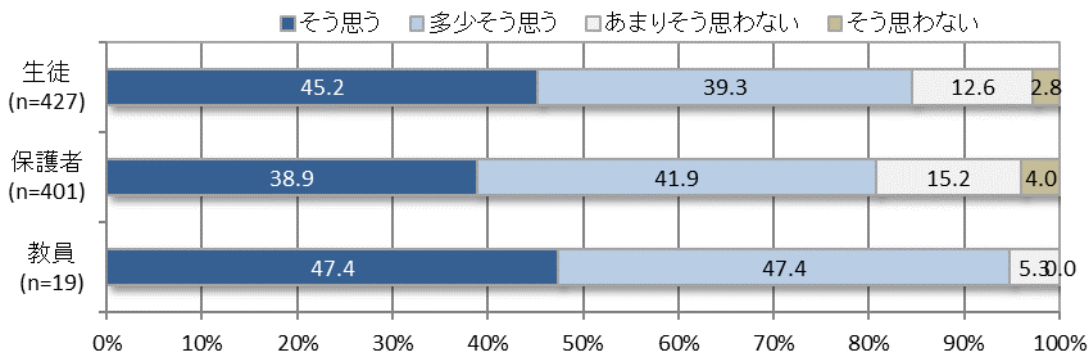
(3) 学校生活にかかわる自己評価の（クロス集計）結果

① 将来の目標



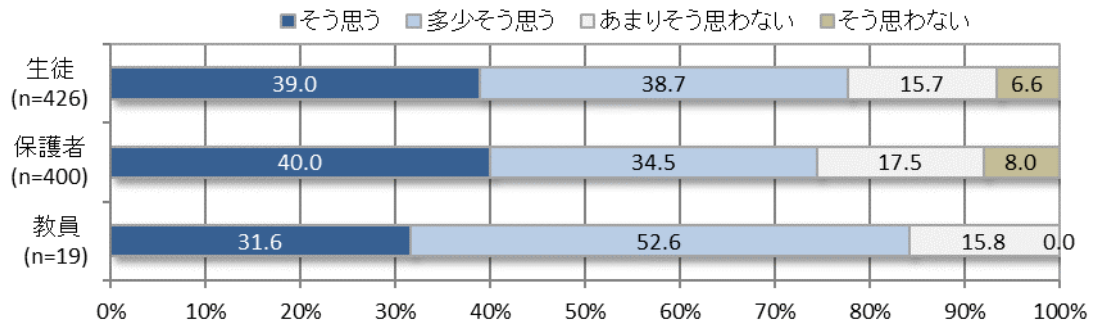
肯定的な回答が教員が9割となっているが、生徒は、保護者は7割前後にとどまった。

② 授業の工夫



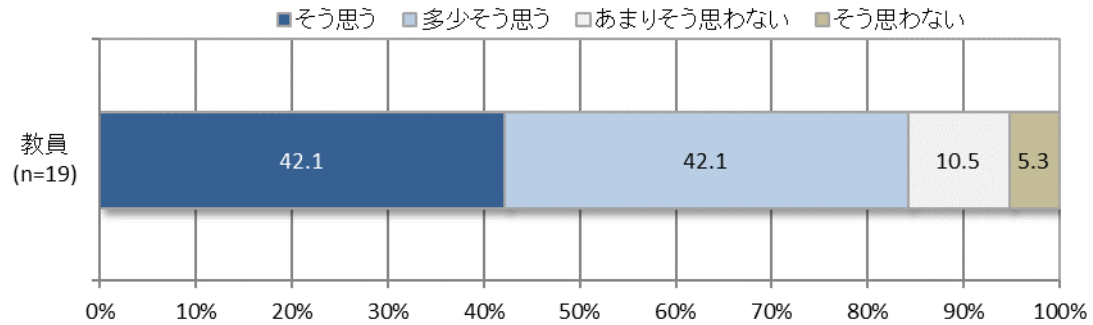
生徒、保護者とも肯定的な回答の比率が8割を超えており、教員は9.5割が肯定的であった。

③ 予習復習



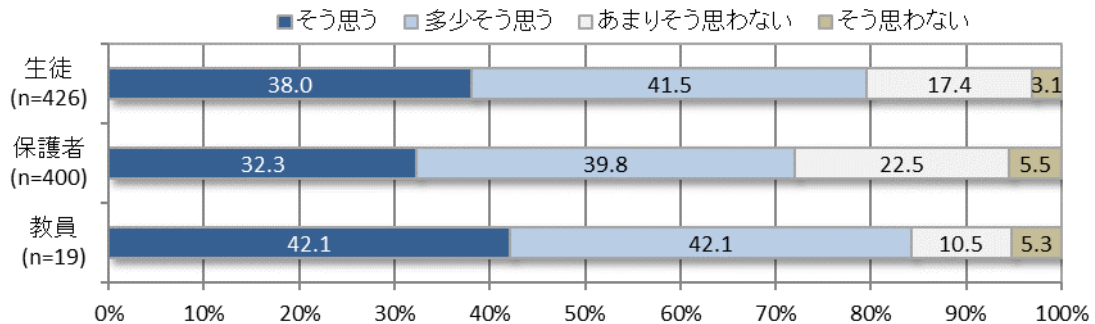
生徒、保護者とも肯定的な回答の比率が8割を超えており、教員は9.5割が肯定的であった。

④ 読解力や表現力*



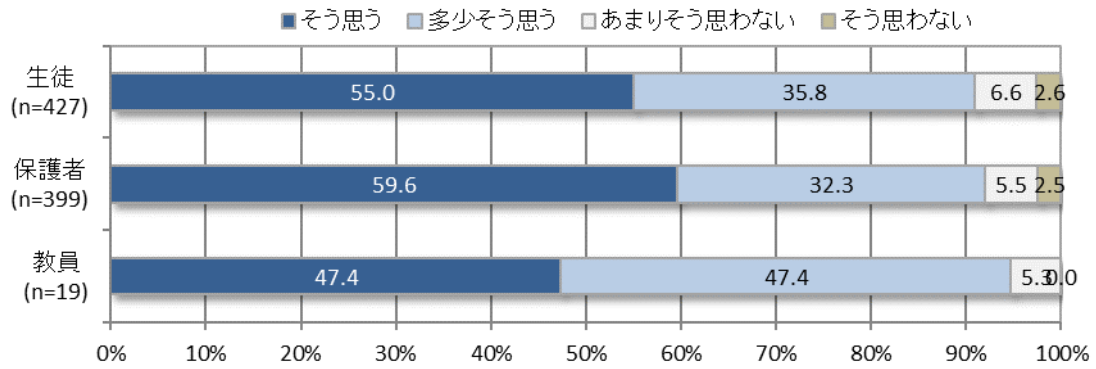
教員は9割以上が肯定的だ。

⑤ 探求的な活動



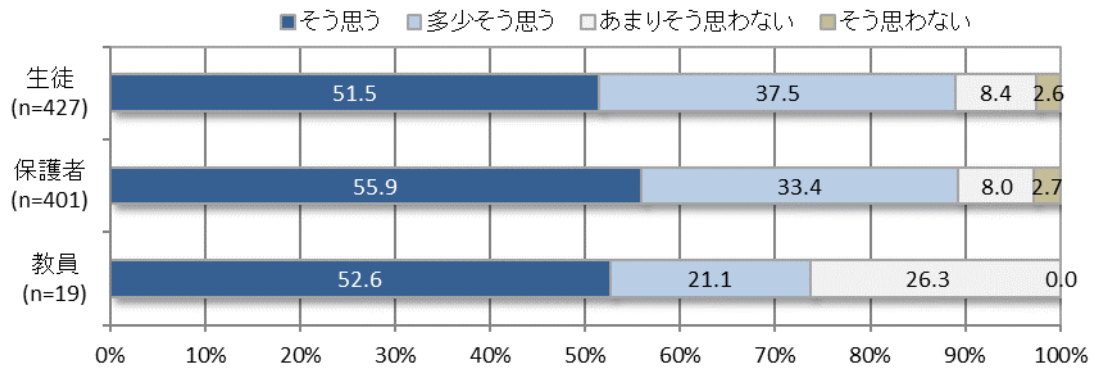
生徒、保護者、教員とも3割から2割が否定的な回答をしている。

⑥ 他の生徒と協力



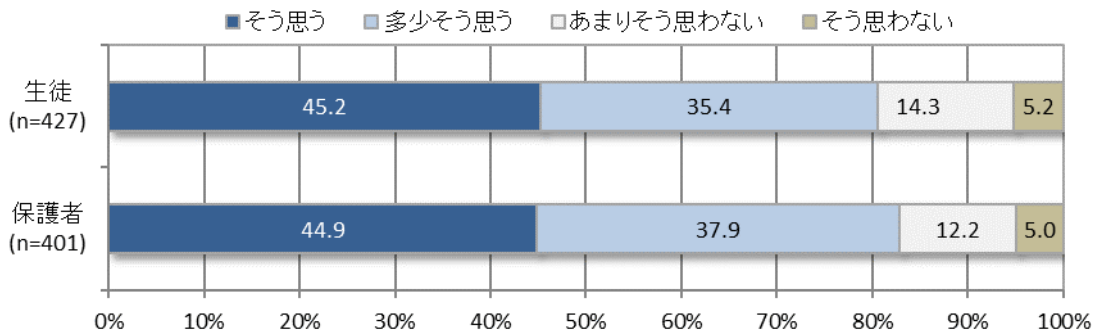
生徒、保護者、教員ともに9割以上が肯定的な回答をしている。

⑦ 人権を尊重した仲間作り



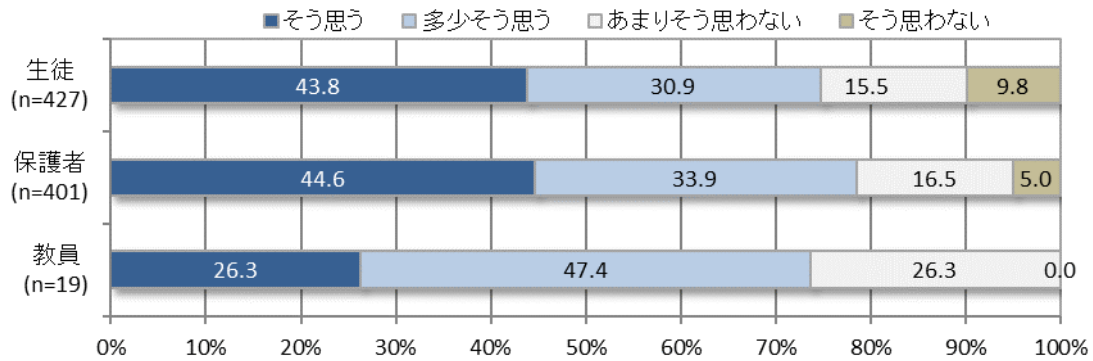
生徒、保護者が約9割が肯定的な回答をしたが、3割近い教員が否定的な回答をした。

⑧ 充実した生活



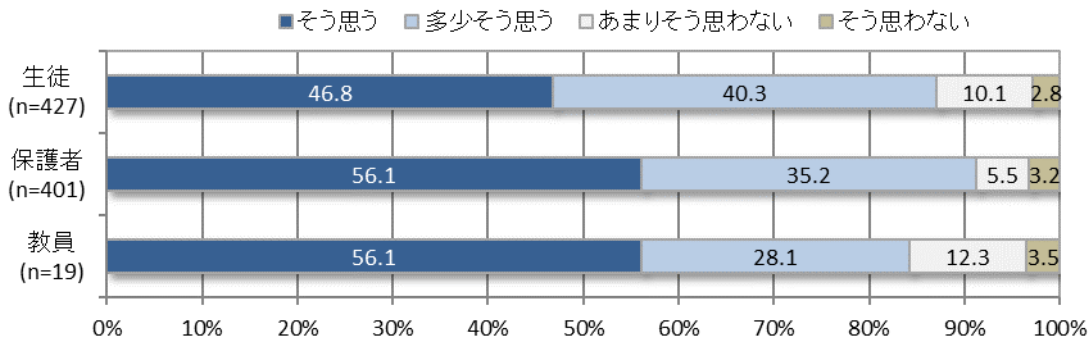
生徒、保護者の8割以上が肯定的な回答をした。

⑨ 生徒の様子への把握



生徒、保護者、教員の肯定的な回答の割合はあまり変わらないが、教員の肯定的な回答がやや他を下回った。

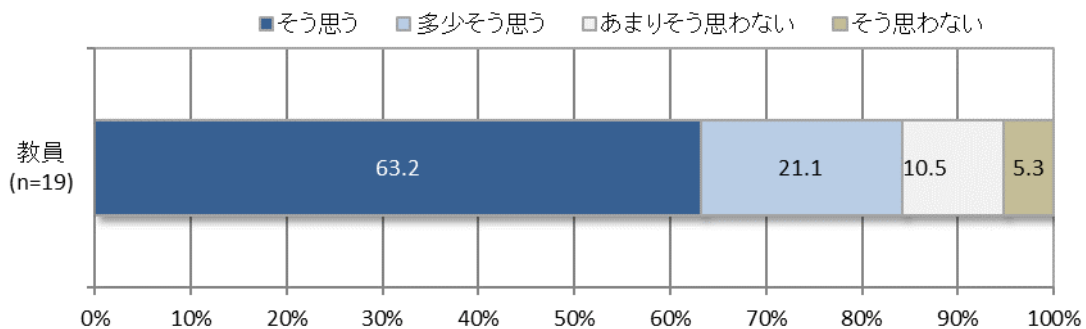
⑩ 決まりの遵守



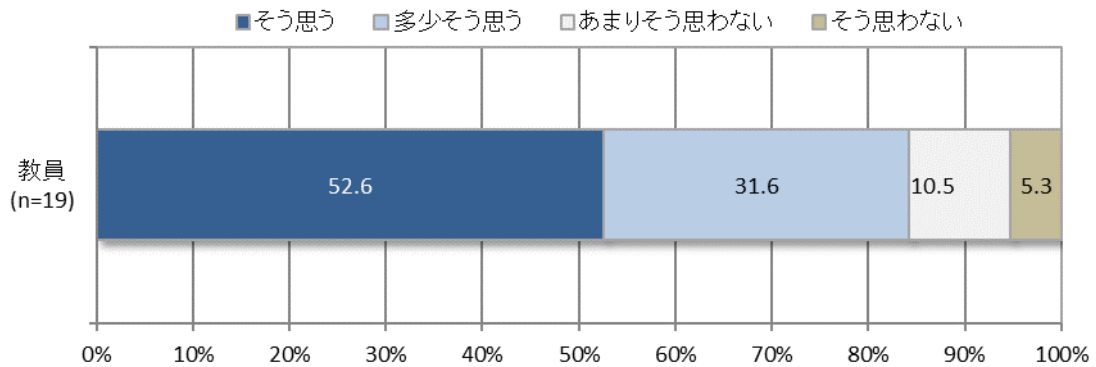
肯定的な回答が、生徒と保護者が9割前後となっているのに対し教員は8割強にとどまった。

注) 教員の「決まりの遵守」は、教師用の「Q12 時間を意識した生活を指導している」「Q13 身なりを意識した生活を指導している」「Q14 教室の整理整頓を意識した生活を指導している」の3つの質問に対する回答の平均で代用した。

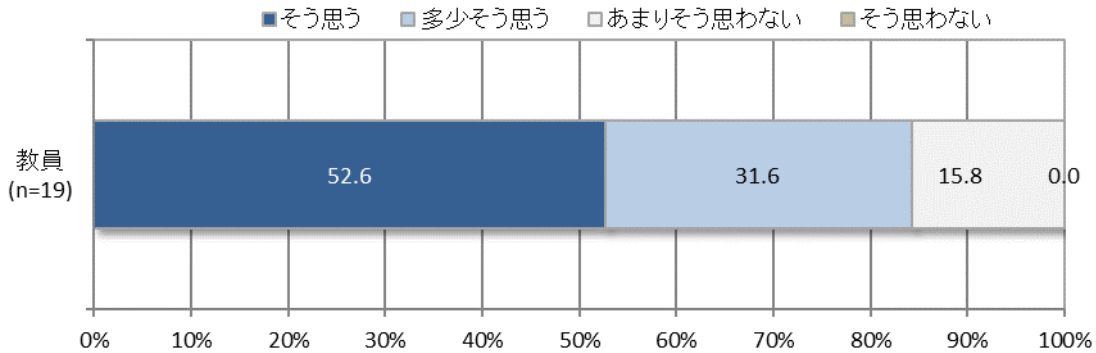
⑪ 時間を意識した生活の指導(⑩に含まれる)



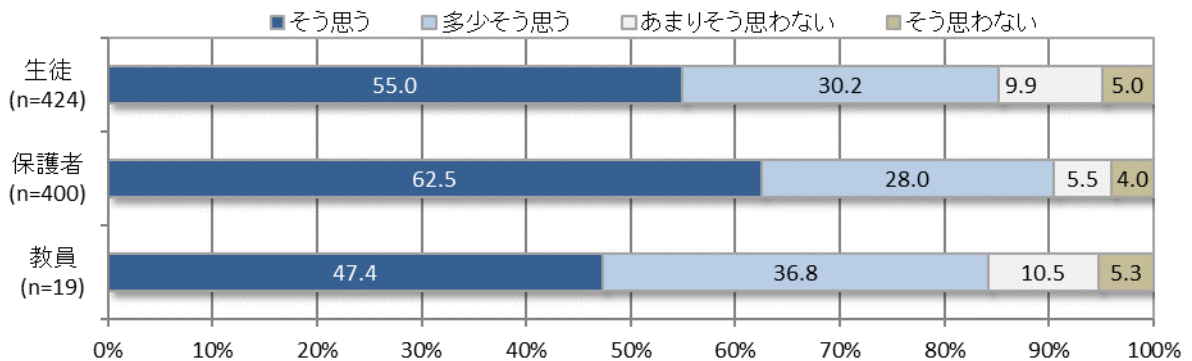
⑫ 学校にふさわしい服装の指導(⑩に含まれる)



⑬ 教室などの整理整頓の指導

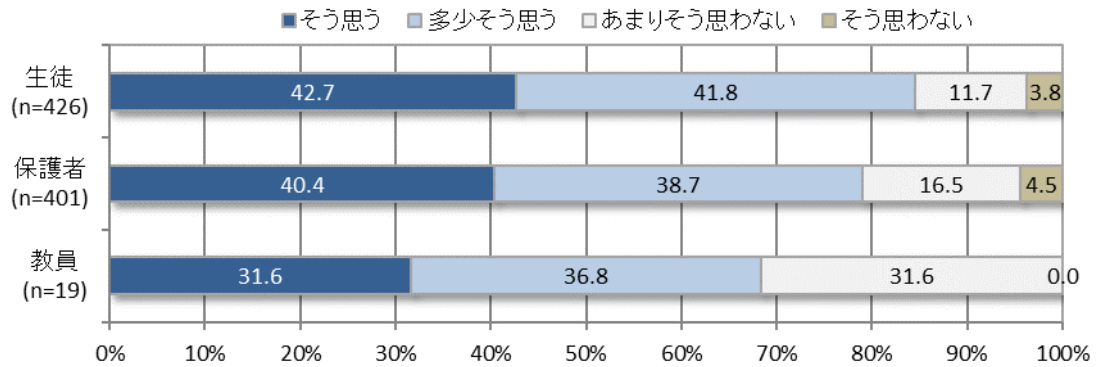


⑭ 学校への誇り(教員は本校の教育目標の理解)



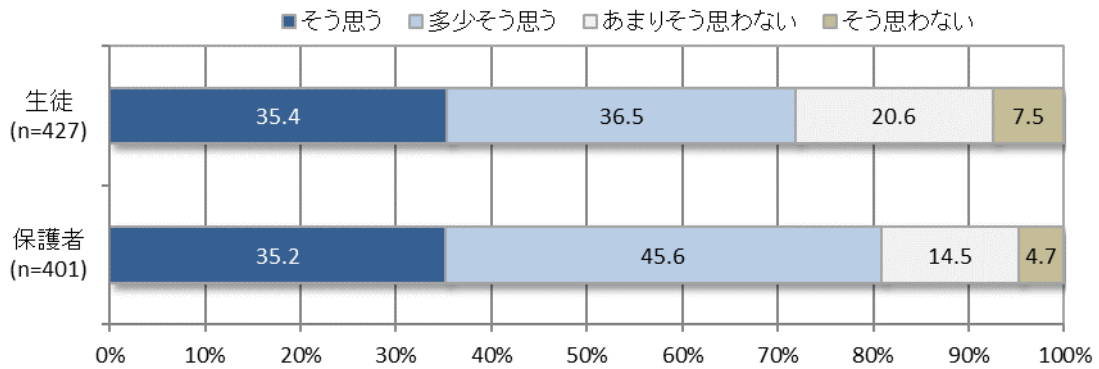
肯定的な回答は、保護者は9割であったが、生徒、教員は8割の中位にとどまった。

⑮ 興味関心(教員は指導目標)



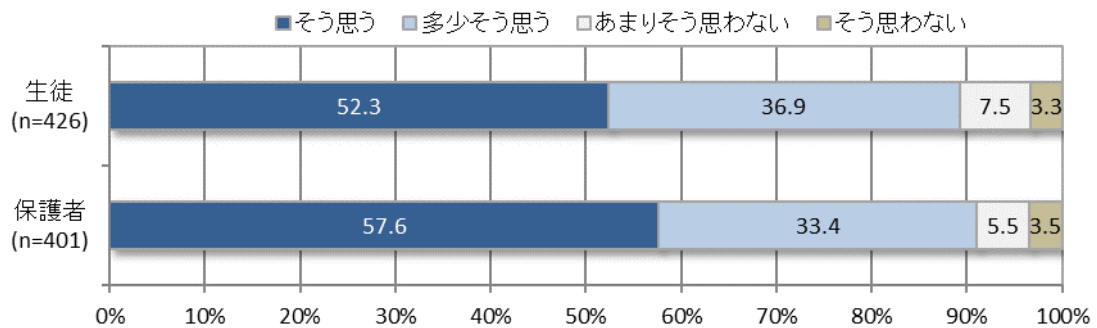
肯定的な回答は、生徒、保護者は8割前後であったが、教員は7割を下回った。

⑯ 教師と生徒の信頼

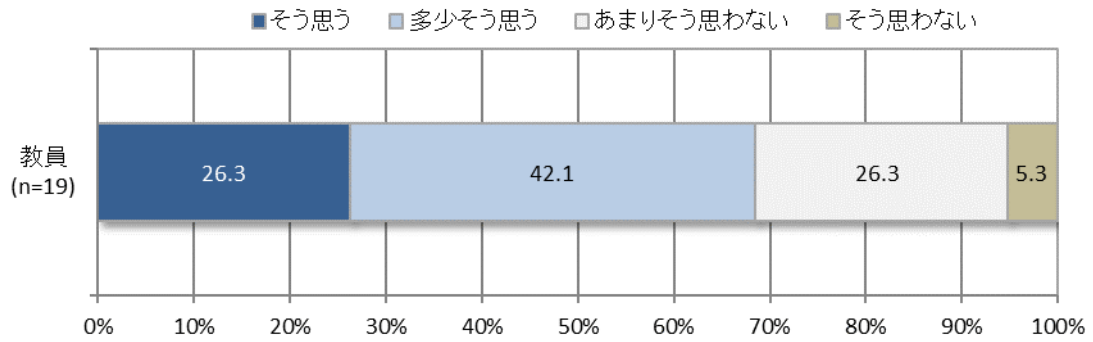


保護者の肯定的な回答が8割をであるが、生徒は7割で差が出た。

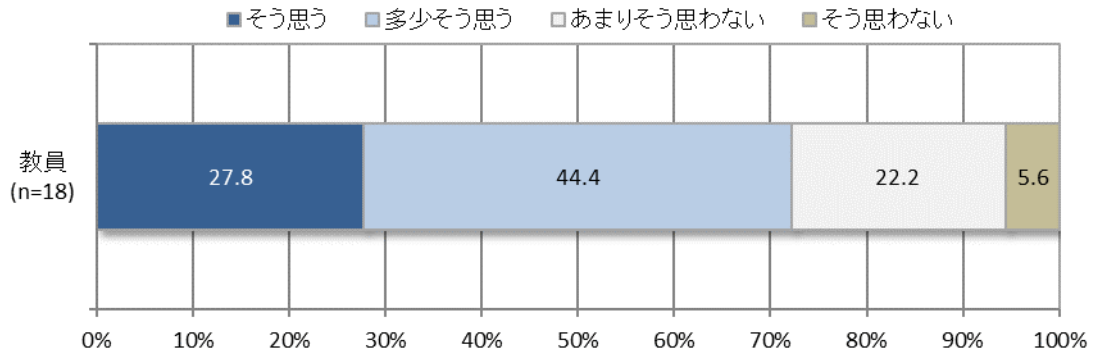
⑰ ふさわしい環境



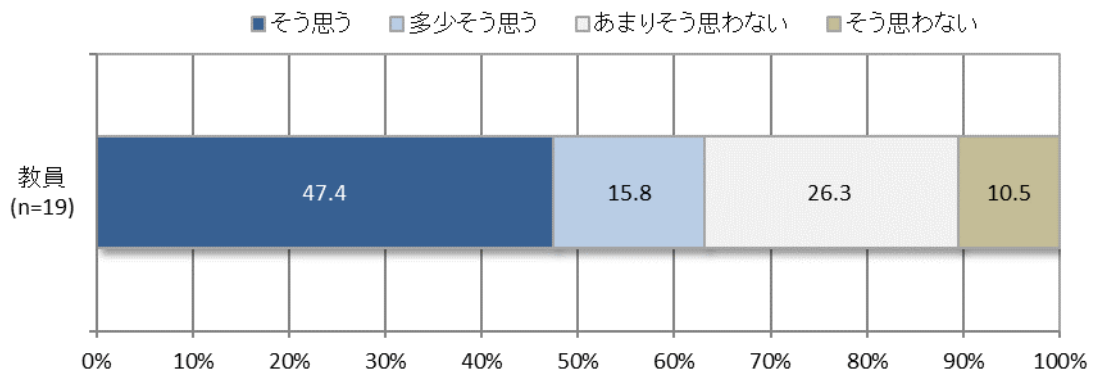
⑱ 保護者に自信を持って対応しているか(教員)



⑲ 職場環境を良くするために努めているか(教員)

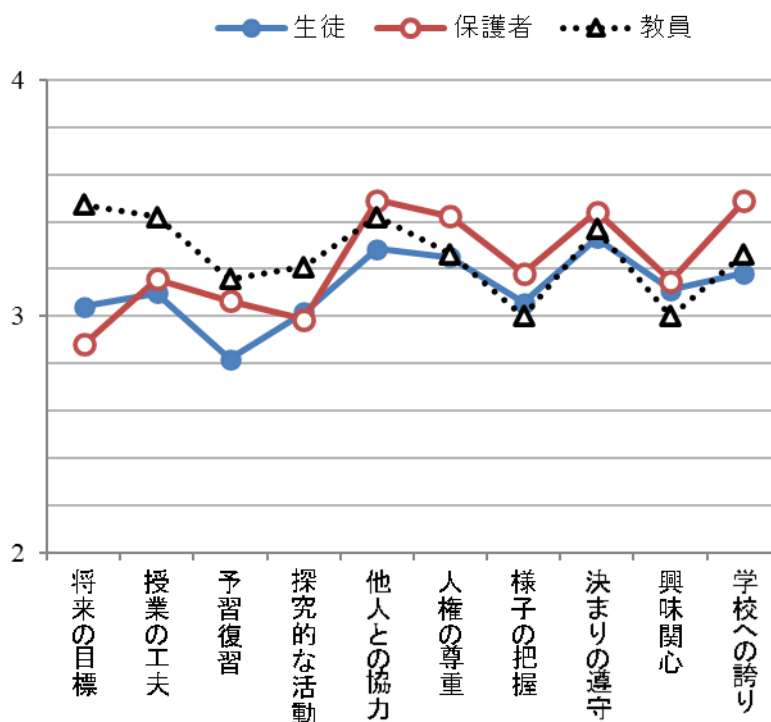


⑳ 熱意をもって日々の仕事に取り組んでいるか(教員)



(4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

① 生徒，保護者，教員間比較

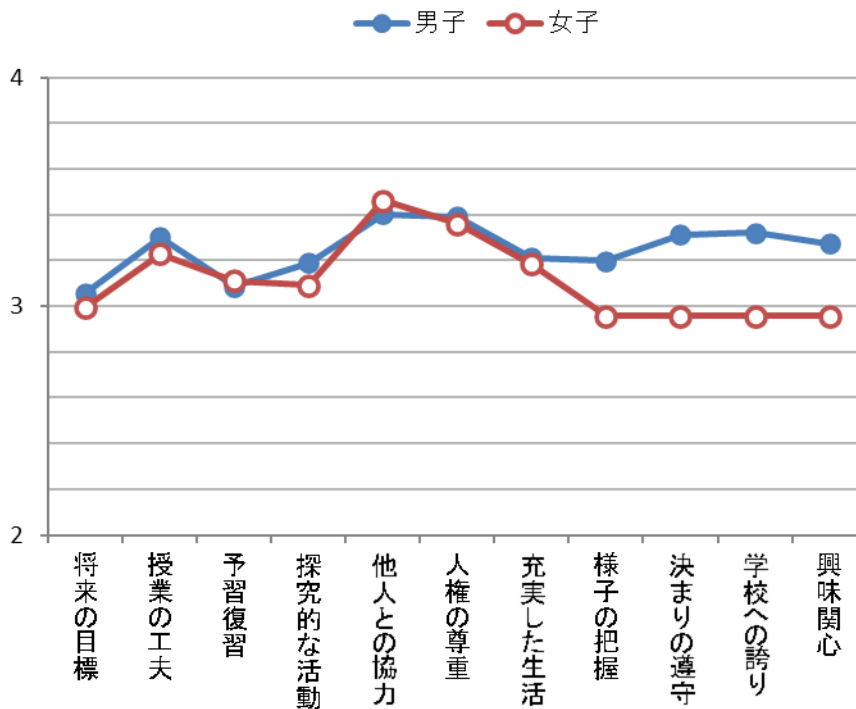


項目	生徒	保護者	教員	F値	有意水準
将来の目標	3.04	2.88	3.47	6.26	p<0.05
授業の工夫	3.10	3.16	3.42	1.82	
予習復習	2.82	3.07	3.16	8.75	p<0.01
探究的な活動	3.02	2.99	3.21	0.70	
他人との協力	3.29	3.49	3.42	8.11	p<0.01
人権の尊重	3.25	3.42	3.26	5.26	p<0.05
様子の把握	3.06	3.18	3.00	2.20	
決まりの遵守	3.33	3.44	3.37	2.34	
興味関心	3.11	3.15	3.00	0.46	
学校への誇り	3.18	3.49	3.26	14.99	p<0.01

「将来の目標」から「学校の誇り」までの10項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして，生徒，保護者，教員の各項目に対する回答の平均を算出し，平均の差の推計に一要因分散分析を施した。

その結果，「将来の目標」を始め5項目に有意差が認められた。全体をみると4つの項目では教員が，6つの項目では保護者のポイントが高かった。

② 生徒の性別による比較

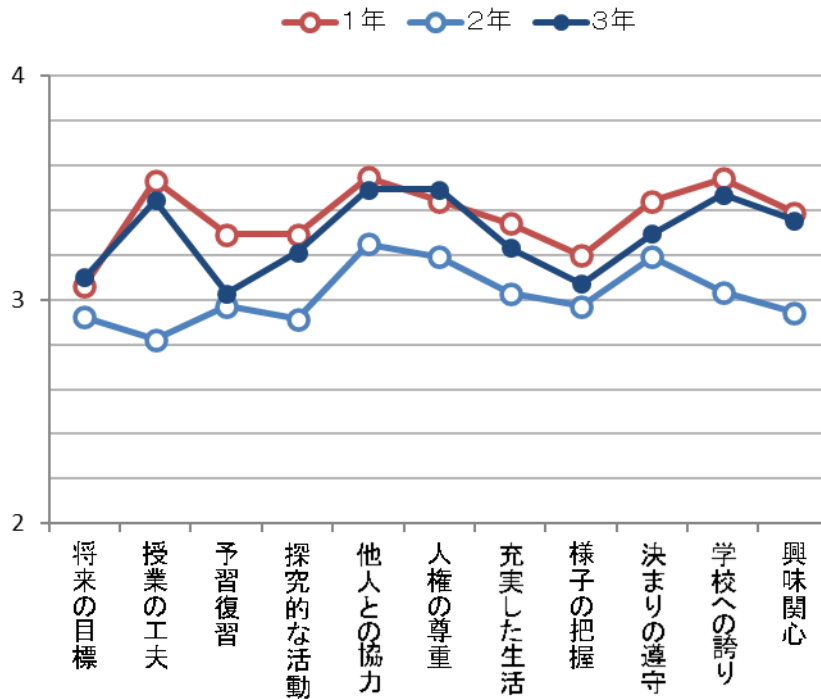


	男子	女子	t値	有意水準
将来の目標	3.06	3.00	0.64	
授業の工夫	3.30	3.23	1.94	
予習復習	3.08	3.11	0.38	
探究的な活動	3.19	3.09	1.78	
他人との協力	3.40	3.46	0.64	
人権の尊重	3.39	3.36	1.15	
充実した生活	3.21	3.18	0.89	
様子の把握	3.20	2.96	2.67	p<0.01
決まりの遵守	3.31	2.96	1.24	
学校への誇り	3.32	2.96	0.26	
興味関心	3.27	2.96	1.99	p<0.05

生徒の性別ごとに、「将来の目標」から「興味関心」までの11項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして平均を算出し，平均の差の推計のために対応のないt検定を施した。

その結果，「様子の把握」，「興味関心」の2項目で性差を認めることができた。有意差の認められた項目においては男子のポイントが女子より高く，学校生活に対する姿勢や授業中の指導に対して男子が充実したものと感じていると考えられる。

③ 生徒の学年による比較



	1年	2年	3年	F値	有意水準
将来の目標	3.1	2.9	3.1	1.491	
授業の工夫	3.5	2.8	3.4	40.209	p<0.01
予習復習	3.3	3.0	3.0	5.189	p<0.05
探究的な活動	3.3	2.9	3.2	8.805	p<0.01
他人との協力	3.5	3.2	3.5	6.853	p<0.01
人権の尊重	3.4	3.2	3.5	6.693	p<0.05
充実した生活	3.3	3.0	3.2	4.735	p<0.05
様子の把握	3.2	3.0	3.1	1.867	
決まりの遵守	3.4	3.2	3.3	3.777	
学校への誇り	3.5	3.0	3.5	15.361	p<0.01
興味関心	3.4	2.9	3.4	14.418	p<0.01

「将来の目標」から「興味関心」までの11項目に対する回答（1：そう思わない，2：あまりそう思わない，3：多少そう思う，4：そう思う）を比率尺度とみなして，各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出し，平均の差の推計に一要因分散分析を施した。

その結果，8項目で学年ごとの平均値に有意差は認められた。包括的に学年を比較すると，1年生で最もポイントが高い項目が1年生で4項目，3年生で2項目，1年生と3年生で同数が3項目あるが，2学年は全てにおいてポイントが最も低かった。

④ 生徒の学年毎の組別比較

1年

項目名	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	3.08	3.09	3.20	2.89	0.11
授業の工夫	3.59	3.52	3.51	3.50	0.04
予習復習	3.35	3.30	3.23	3.28	0.04
探究的な活動	3.32	3.30	3.37	3.17	0.07
他人との協力	3.54	3.45	3.69	3.50	0.09
人権の尊重	3.46	3.64	3.40	3.28	0.13
充実した生活	3.49	3.21	3.37	3.28	0.10
様子の把握	3.22	3.27	3.11	3.19	0.06
決まりの遵守	3.62	3.33	3.29	3.50	0.13
学校への誇り	3.54	3.55	3.55	3.53	0.01
興味関心	3.54	3.30	3.40	3.31	0.10

2年

項目名	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	2.78	3.06	2.75	3.12	0.16
授業の工夫	2.94	3.00	2.42	2.94	0.24
予習復習	2.86	3.37	2.83	2.82	0.23
探究的な活動	2.81	3.17	2.64	3.06	0.21
他人との協力	3.08	3.43	3.11	3.38	0.16
人権の尊重	3.11	3.14	3.33	3.18	0.09
充実した生活	3.03	3.06	2.83	3.21	0.13
様子の把握	3.11	3.09	2.69	3.00	0.17
決まりの遵守	3.14	3.29	3.11	3.24	0.07
学校への誇り	3.00	3.26	2.72	3.18	0.21
興味関心	2.89	3.29	2.61	3.00	0.24

3年

項目名	1組	2組	3組	4組	標準偏差
将来の目標	3.29	3.14	2.94	3.03	0.13
授業の工夫	3.40	3.58	3.32	3.44	0.09
予習復習	3.14	3.26	2.79	2.92	0.18
探究的な活動	3.37	3.31	2.94	3.19	0.16
他人との協力	3.43	3.61	3.44	3.50	0.07
人権の尊重	3.57	3.47	3.44	3.50	0.05
充実した生活	3.23	3.44	3.24	3.00	0.16
様子の把握	3.17	3.39	3.15	2.58	0.30
決まりの遵守	3.31	3.47	3.21	3.17	0.12
学校への誇り	3.56	3.50	3.38	3.42	0.07
興味関心	3.40	3.54	3.21	3.25	0.13

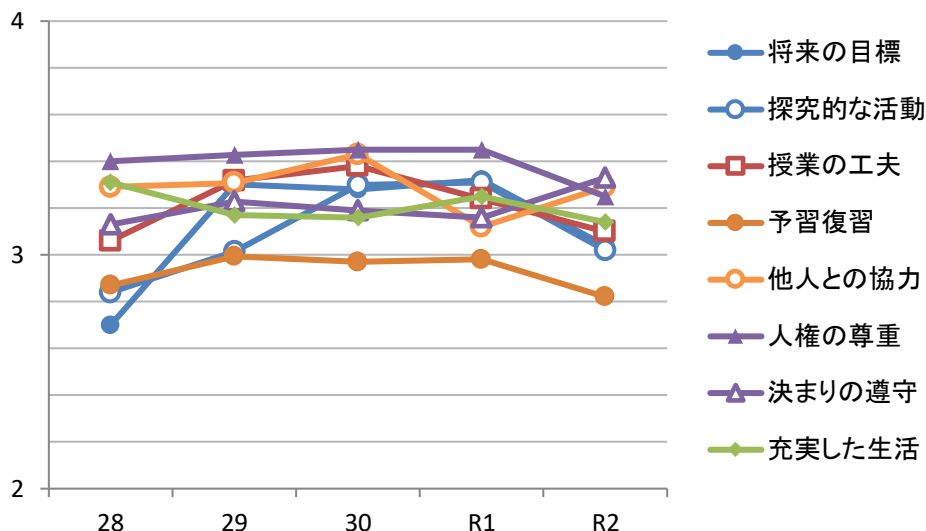
「将来の目標」から「興味関心」までの11項目に対する回答（1：そう思わない， 2：あまりそう思わない， 3：多少そう思う， 4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年のクラ

スごとに各項目に対する回答の平均値と標準偏差を算出した。

特に偏差が高い項目，学年は認められなかった。

(5) 調査項目に対する回答の年度推移

○生徒全体



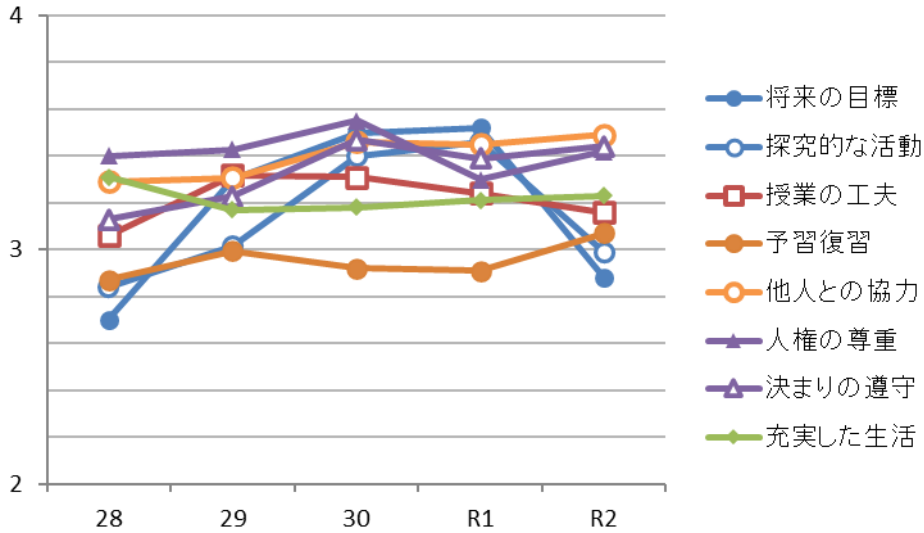
生徒

年度 項目	平成28年度			平成29年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	463	2.70	0.90	466	3.30	0.75
探究活動	461	2.84	0.79	465	3.02	0.80
興味関心と授業	463	3.06	0.78	466	3.32	0.77
予習復習努力	463	2.87	0.90	465	2.99	0.89
他者との協力	462	3.29	0.79	465	3.31	0.75
他者の尊重	462	3.40	0.74	466	3.43	0.72
決まりの順守	463	3.13	0.80	464	3.23	0.80
学校生活の充実	462	3.31	0.87	466	3.17	0.90

平成30年度			令和元年度			令和2年度		
度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
417	3.28	0.77	426	3.32	0.80	427	3.04	0.85
420	3.30	0.78	426	3.31	0.79	427	3.02	0.80
420	3.38	0.70	426	3.24	0.79	427	3.10	0.78
419	2.97	0.85	426	2.98	0.84	427	2.82	0.81
420	3.43	0.71	425	3.12	0.84	427	3.29	0.75
420	3.45	0.73	426	3.45	0.76	427	3.25	0.79
419	3.19	0.77	426	3.16	0.80	427	3.33	0.72
420	3.16	0.85	426	3.25	0.86	427	3.14	0.83

全ての項目において微増微減が認められる。とくに8項目中6項目に減少が認められる。このことが設問の変更に伴う変化であるかどうかの詳細な検証が必要である。

○保護者

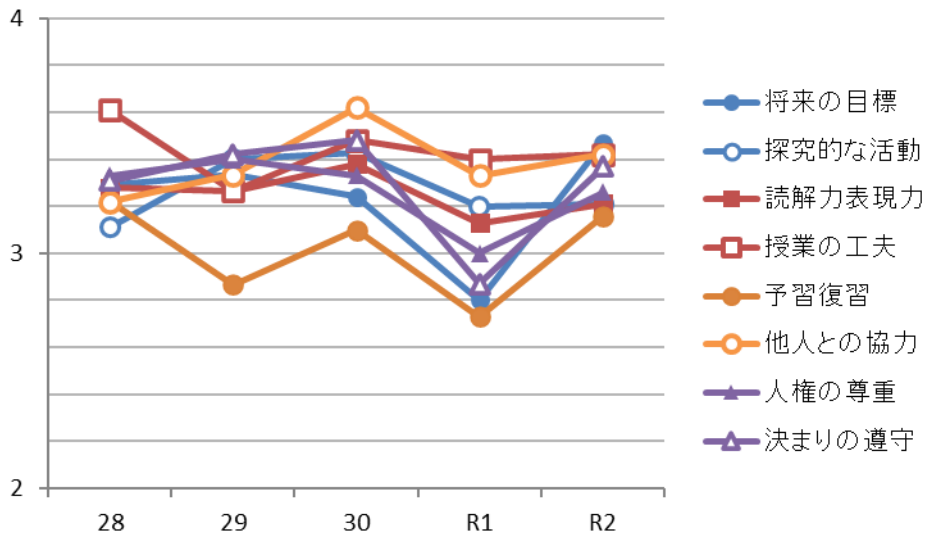


年度 項目	平成28年度			平成29年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	433	2.46	0.95	416	3.43	0.78
探究活動	432	2.69	0.91	416	2.82	0.88
興味関心と授業	433	3.06	0.82	416	3.36	0.73
予習復習努力	433	2.88	0.97	416	2.94	0.95
他人との協力	433	3.47	0.73	416	3.49	0.70
他人の尊重	432	3.54	0.65	416	3.57	0.62
決まりの順守	433	3.46	0.69	416	3.44	0.72
学校生活の充実	433	3.46	0.69	416	3.20	0.81

平成30年度			令和元年度			令和2年度		
度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
401	3.50	0.75	359	3.52	0.72	401	2.88	0.95
401	3.40	0.68	359	3.46	0.65	400	2.99	0.88
401	3.31	0.75	358	3.24	0.73	401	3.16	0.82
401	2.92	0.96	359	2.91	0.94	400	3.07	0.94
400	3.46	0.65	359	3.45	0.67	399	3.49	0.71
401	3.55	0.61	359	3.30	0.70	401	3.42	0.75
401	3.47	0.70	359	3.39	0.72	401	3.44	0.74
400	3.18	0.79	359	3.21	0.80	401	3.23	0.85

「将来の目標」、「探求的な活動」と「授業の工夫」に減少が認められるものの、「予習復習」は増加の傾向が認められる。「将来の目標」「探求的な活動」の変化が大きいが、今後詳細な検証が必要である。

○教員



教員

年度 項目	平成28年度			平成29年度		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
将来の目標	17	3.29	0.59	15	3.33	0.47
探究活動	18	3.11	0.83	15	3.40	0.49
聞く伝える	18	3.28	0.90	15	3.27	0.77
興味関心と授業	18	3.61	0.61	15	3.27	0.68
予習復習努力	18	3.22	0.67	15	2.87	0.81
他者との協力	18	3.22	0.88	15	3.33	0.79
他者の尊重	18	3.33	0.69	15	3.40	0.80
決まりの順守	18	3.31	0.60	15	3.42	0.61

平成30年度			令和元年度			令和2年度		
度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
21	3.24	0.61	15	2.80	0.75	19	3.47	0.68
21	3.43	0.49	15	3.20	0.65	19	3.21	0.83
21	3.38	0.79	15	3.13	0.81	19	3.21	0.83
21	3.48	0.59	15	3.40	0.49	19	3.42	0.59
21	3.10	0.75	15	2.73	1.00	19	3.16	0.67
21	3.62	0.58	15	3.33	0.60	19	3.42	0.59
21	3.33	0.64	15	3.00	0.73	19	3.26	0.85
21	3.48	0.66	15	2.87	0.88	19	3.37	0.83

すべての項目において、前年度より増加した。